

# 夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校  
学校だより 第1号  
平成30年4月10日

## 進級・入学おめでとうございます

校長 浅井 好

校庭には、パンジーやビオラ、ストックなど、先輩たちが心を込めて育てた花々が、新しい学年の始まりを祝うように咲き誇っています。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、在校生の皆さん、進級おめでとうございます。新入生と在校生の皆さんは、それぞれが「卒業後、就職し自分の力で生きていける社会人になる」という目標をもち、自らの意思で本校に入学してきました。学校だより第1号では、皆さんが「就職し自分の力で生きていける社会人」になるために、本校が特に大切にしている「当たり前のことができる」ということを書きます。



皆さんは、パティシエの杉野英実（すぎの ひでみ）さんという方を知っていますか。1991年に行われたパティシエの世界大会で、日本チームを優勝に導き、2000年にルレ・デセールというフランスのパティシエとショコラティエが組織する協会で、東洋人初の会員になった方です。

この杉野英実さんが、「どうしてそんなにおいしいお菓子を作れるのですか」という質問に対して、「当たり前を積み重ねると特別になる」と答えているのです。素材を一つ一つ検品すること、お菓子の焼き時間を秒単位で守ること、お菓子里に染み込ませるお酒の量をグラム単位で守ること、隠し味に使うショウガを2ミリに切りそろえること。言葉にすると、どれもあたり前のことです。しかし、毎日数百個ものお菓子を作り続ける厨房で、一つも手を抜かずに完璧に貫けるかどうか。それが一番むずかしい。そしてそれができたときに、お菓子は特別においしくなるというのです。

では、「就職し自分の力で生きていける社会人」としての「当たり前」とはなんのでしょうか。職種によって「当たり前」は様々です。本校では、どの職種にも通じる「当たり前」を、次の3つと捉えています。一つ目は、気持ちのよい挨拶を進んでできること。二つ目は、心を込めて清掃や作業をできること。三つ目は、時間を意識して行動できることです。こうしたあたり前のことを一つ一つ積み重ねることが、企業や地域の方々に信頼され、大切にされる「特別な存在」につながるのです。

「当たり前のことができる」

簡単ではないかもしれませんが、私たちといっしょに頑張ってください。

最後に、保護者の皆様にお礼があります。生徒たちは、各学年で一歩ずつ自立への道を歩き始めています。しかし、今後、社会人として自立していくためには、まだまだ保護者の皆様の支えが必要です。引き続き、温かですっきりとした支えをよろしく願いいたします。

一年間、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。